



～経営基盤確立に向けて～

平成30年度野菜重点推進品目支援策(案)

J A あきた北では組合員の所得確保を第一に考え、大規模・専業農家、集落営農組織育成のための提案や、営農拡大・継続支援策等の独自助成により、強固な経営基盤確立に向けた支援策を実施しています。

30年度の支援策はエダマメの被覆資材助成やトンブリの機械助成、キュウリの支柱(更新)助成、花き(ダリア)の球根助成を新たに設け、一部の内容を改正。次の3項目を主体とした支援策で、地域農業の担い手の確保・育成を図ります。

- ▼地域特性を活かした産地づくりを実践するため、エダマメ・アスパラ・ヤマノイモを継続して最重点品目として生産拡大を目指します。
- ▼土づくりおよび新規・増反に対する支援を実施し、収量向上と生産意欲の向上を目指します。
- ▼高齢者や女性にも取り組みやすい軽量野菜を推進し、市場ニーズに対応します。

共通助成要件

- 苗、資材等についてはJ Aより購入した物を対象とします。
- 生産調整実施者で原則としてJ A出荷とし、J Aの出荷要件等を遵守するものとします。
- 新規・増反面積については、過去に一度栽培して復活した部分は面積換算しないものとします。
- 各作目とも助成金額に記入されている金額を上限とし、千円未満切捨てとします。
- 支柱助成で5ヵ年継続せず途中で栽培を止めた場合は、自己負担額の半額程度の金額で引き取るものとします。

栽培戸数	43戸 (47戸)
栽培面積	23.5ha (25.9ha)
出荷重量	148,274kg (205,544kg)
販売金額	54,940千円 (89,150千円)
販売単価	371円/kg (434円/kg)

※()内は前年度実績

**平成29年度
作柄状況と販売実績**

5月上旬より定植が始まり、雨による作業の遅れで6月中旬までかかった。6月の低温の影響で生育が1週間程度遅れて推移し、肥大期に入る8月下旬になりやつと葉の量を確保することができた。

しかし、9月上旬から10月の低温により葉の黄化が前年より10日程早まり、肥大に影響したため収量は前年を下回った。形状はよく、秀優品で72・6%となっている。

大館市の特産品として、市場評価が高く収益性もあります。また、共同選果体制も整備されています。近年、重労働であった定植作業が機械化され、転作田を有効活用した大規模化も可能です。

最重点品目
ヤマノイモ

平成30年度支援策(案)

■: 新規支援策 □: 改正支援策 色ぬりなし: 継続支援策

助成内容	対象	対象金額	助成率	10a当り助成金額
支柱(新規・増反)	0.5ha	110,250円/10a	1/2	55,000円
種芋(新規・増反)	0.5ha	160,000円/10a	1/3	53,000円
種芋追加助成	40a	160,000円/10a	1/3	53,000円
機械定植委託費用	3ha	16,000円/10a	1/2	8,000円

■面積10a以上で、J A市場出荷実績が部会平均出荷量の70%を超えたものとし、5ヵ年継続して栽培することとします。

■種芋追加助成は、面積20a以上の新規・増反を対象とします。

■機械定植委託費用は、面積10a以上で部会平均出荷量の70%を超えた既存栽培者も対象とします。

